

【短報】

テレビアンテナに営巣するササゴイ

丹下一彦¹¹〒791-8026 松山市山西町 663 新田高等学校

「松山市の中心街にあるビルの屋上のテレビアンテナで、鳥が巣を作って雛をかえしている。」という情報が2006年6月によせられた。7月上旬確認に赴き望遠鏡で確認したところ、ササゴイ *Butorides striatus* であった。巣には巣立ち直前の4羽の雛が確認でき、羽ばたきの練習をしていた(図1)。また近隣で、別の2巣を確認した。

ササゴイは本州以南に夏鳥として渡来する全長50～55cmのサギの仲間であり、主に小魚やカエルなどを餌にしている(日本野鳥の会愛媛

県支部, 1992)。愛媛県では営巣木の減少や採餌環境の悪化などで絶滅のおそれがある種に指定されている(愛媛県貴重野生動物検討委員会, 2003)。

本種は河川の河畔林や神社の境内の社寺林に数羽の群れで繁殖し、クスノキやイチョウなどの大木の樹冠に枯れ枝を集めて皿型の巣をつくる。著者は松山市周辺では30年ほど前に持田町の八幡神社でコロニーを確認しており、社寺林が伐採された後は、近隣の愛媛大学附属小学校の校庭のクスノキで繁殖していることを確認している。今回の調査地点周辺においても、2006年に圓休寺のクスノキ(図2上: 樹高10m程度, 図3の★印)で営巣と幼鳥を確認したが(図2下), 2007年には営巣木が伐採された。

ササゴイがテレビアンテナに営巣することは、山口県周東町における1巣の繁殖が報告されており(小林, 1992), また愛媛県でも、新聞紙上に投稿されたが(愛媛新聞 2005年6月1日付記事, コメントではゴイサギとなっていた), こうした断片的な記録以外に情報はない。今回の確認時点の2006年6月は、繁殖をほぼ終える時期であったため、2007年に再度調査を行い報告することにした。

調 査 方 法

松山市市街地のどのような環境をササゴイが繁殖地として利用するのかを確認するために、今回情報のあった松山市湊町を中心に半径約2キロの範囲内で調査を行った。調査範囲は東西が湊町から千舟町、南北は石手川から北側で千舟通りの範囲で(図3), 路地を移動しながら、目視または双眼鏡でテレビアンテナを中心に営



図1 湊町の屋上のテレビアンテナと巣(上), および巣立ち直前のササゴイの幼鳥(下) (2006年7月6日撮影)



図2 圓休寺のクスノキ(上)と巣立ち直後のササゴイの幼鳥(下)(2006年7月6日撮影)

巣の有無を確認した。調査は2007年5月15日に実施し、巣が確認された場合は、地図上の巣の位置と状況を記録した。

結果と考察

調査範囲で9巣が確認できた(図3)。確認できた巣はすべてビルやアパートの屋上にあるテレビアンテナに作られており(図4)、特にビルの屋上を利用したものが多かった。湊町四丁目の銀天街周辺では、およそ200m四方の範囲に5巣が集中して確認できた。また、そうした場所から離れて単独で作られているものもあった(図3のNo. 5, 6)。本種の採餌場である石手川周辺の河畔林や、川の近くのテレビアンテナでは確認できなかった。

本種がテレビアンテナで営巣していたことについては、営巣地である神社の社寺林が伐採されたことによる、代替地としての利用が考えられる。しかし、今回の営巣場所は餌場の石手川まで500～700m離れている。また、石手川の土手にはエノキやムクノキなど営巣可能と思われる大木が存在し、テレビアンテナのあるマンションやアパートも多い。本種がなぜそうした場所

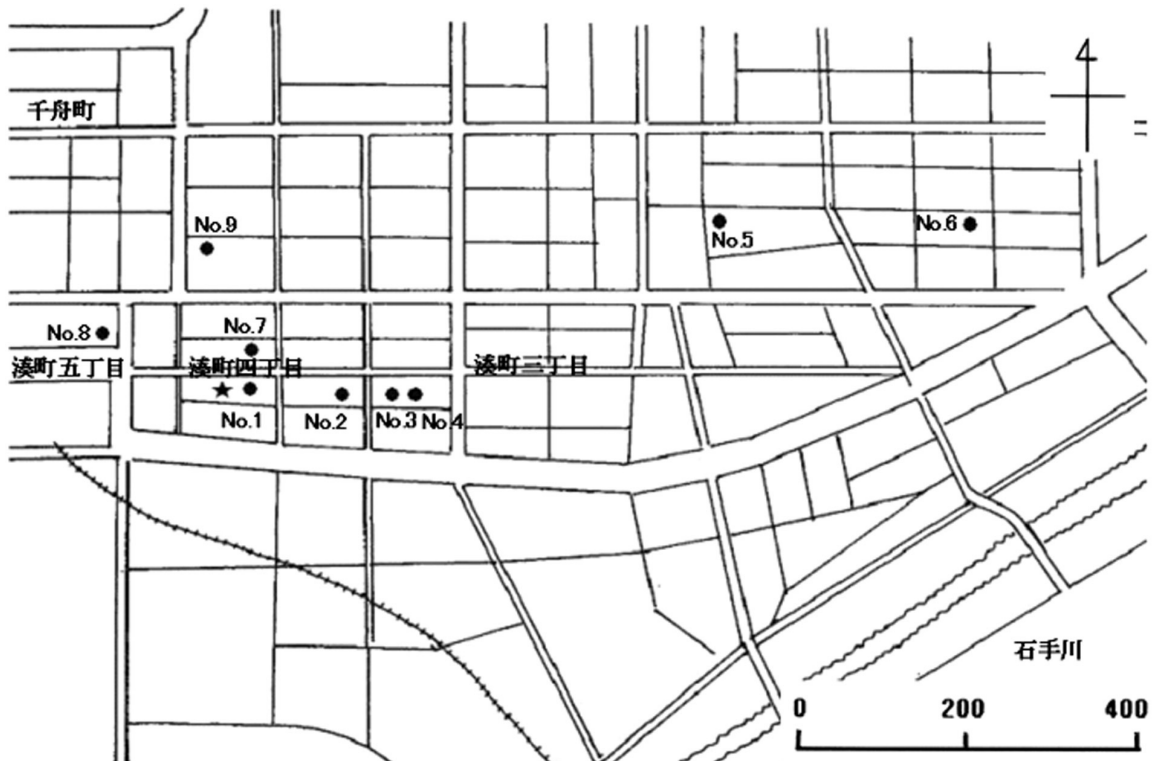


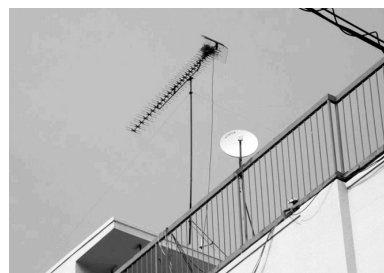
図3 調査範囲と営巣確認ができた地点(●)★は圓休寺の営巣木



No.1



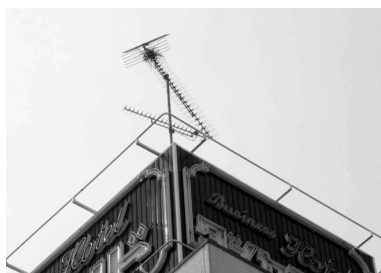
No.2



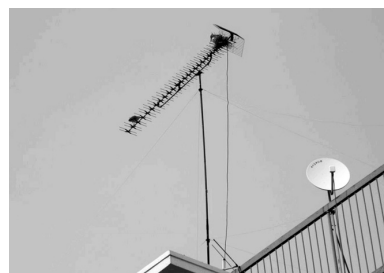
No.3



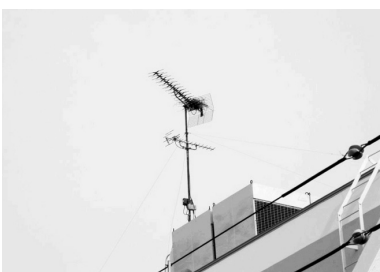
No.4



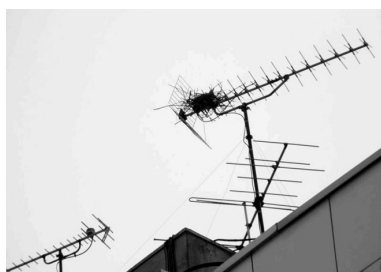
No.5



No.6



No.7



No.8



No.9

図4 テレビアンテナにおけるササゴイの営巣状況 (2007年5月15日撮影) No.1～No.9は図3に対応

でなく、市街地を営巣場所を選んだのかは不明である。

テレビアンテナは直射日光を遮るものがないため昼間はかなり暑く、また外から丸見えで外敵に対して無防備であるといった点で不利である。特に、調査地点の周辺は城山をめぐらすカラス類の朝夕の通過コースになっており、卵や雛をカラスに狙われる可能性がある。その上、単独で営巣しているものがあることは、さらに外敵に対する危険度が高いことを意味する。

一方、テレビアンテナは強風に強く、しかも小枝が固定されやすいなど、樹木より安定性があると思われること、特にビルの屋上は立ち入り禁止としているところが多く、カラスなどの空からくる天敵以外に対して比較的安全であると考えられることなどは、営巣上の利点といえる。なお、今回営巣が確認されたアンテナは導波器の間隔が狭い UHF アンテナが多く (図4、

No. 2-9), 巣の安定性や作りやすさから VHF アンテナ (図4, No.1) より UHF アンテナが好まれているかもしれない。

ササゴイは愛媛県レッドデータブックでは準絶滅危惧 (NT) に指定されている。それは、繁殖場所として多く利用される河畔林が減少していること、市街地の社寺林では糞や鳴き声が住民へのトラブルになることなどが理由である。しかし、今回のように人工物を利用することで都市環境に適応してきている可能性がある。今後、さらに調査範囲を拡大し営巣実態を確認する必要がある。また、こうした人工物の利用が一時的なものであることも考えられるため、今回確認した営巣場所についても継続した観察が必要である。

引用文献

小林繁樹. 1992. テレビアンテナに営巣したササゴイ, *Strix*, 11 : 345-347.

愛媛県貴重野生動植物検討委員会 (編). 2003. 愛媛県レッドデータブックー愛媛県の絶滅のおそれのある野生動物ー. 愛媛県県民環境部環境局自然保護課, 愛媛. 446pp.

日本野鳥の会愛媛県支部. 1992. 愛媛の野鳥観察ハンドブックはばたき. 愛媛新聞社, 松山. 383pp.

(南予生物 15 : 30-33, 2008 年 4 月 15 日受付)

連絡先 丹下一彦 (〒 791-8026 松山市山西町 663 新田高等学校)